

私たちの希望が失望に終わることはない

「その希望が失望に至ることはありません」。[ローマ 5:5](#)

[142 番の歌](#) 希望をしっかりと持ち続ける

何を学ぶか*この記事では、クリスチャンがどんな希望を持っているか、その希望が実現すると確信できるのはどうしてかを考えます。また、[ローマ 5 章](#)から、私たちが今持っている希望は**真理を学び始めた時**と比べてどんな意味で違っているかも学びます。

1. アブラハムはどんな約束に基づいて希望を持つことができましたか。

エホバはご自分の友アブラハムに、「あなたの子孫によって地上の全ての国民が祝福を受ける」と約束しました。[\(創 15:5\)](#) 神はアブラムを外に連れていき、こう言った。「天を見上げ、星を数えてごらん下さい。もしも数えることができるのなら」。そして言った。「あなたの子孫(d*種)も星のように多くなる」;[\(22:18\)](#) あなたの子孫(d*種)によって地上の全ての国民が祝福を受ける(*獲得する)。あなたが私の言ったことに従ったからである) アブラハムはエホバへの強い信仰を持っていたので、その約束が実現することを確信していました。とはいえ、アブラハムが100歳、妻のサラが90歳になっても、2人にはまだ子供がいませんでした。[\(創 21:1-7\)](#) エホバは以前に語った通り、サラに注意を向けた。エホバは約束していたことをサラのために行った。2 それでサラは妊娠し、神が約束していた時に、老齢のアブラハムの子を産んだ。3 アブラハムは、生まれた息子、サラが産んだ子をイサクと名付けた。4 そして神に命じられた通り、生後8日目にイサクに割礼を施した。5 息子イサクが生まれた時、アブラハムは100歳だった。6 その時サラは言った。「神は私に笑いを与えてくださった。このことを聞いた人は皆、きっと私と一緒に笑う(並*私のことを笑う)」。7 続けてこう言った。「『サラは必ず子供を育てるようになる』なんて、誰がアブラハムに言えただろう。それでも私は、年老いたあの人の子を産んだ」) でも聖書にはこうあります。「アブラハムは希望に基づいて信仰を持ちました。……多くの国の人々の父祖となることを信じたのです」。[\(ロマ 4:18\)](#) かないそうにない希望でしたが、それでもアブラハムは希望に基づいて信仰を持ちました。「あなたの子孫(d*種)も星のように多くなる」と言われた通り、多くの国の人々の父祖となることを信じたのです) 私たちがよく知っている通り、アブラハムの希望は現実のものになり、待望の息子イサクが生まれました。アブラハムはどうしてエホバの約束が実現することを確信できたのでしょうか。

2. エホバの約束が実現するとアブラハムが確信できたのはどうしてですか。

2 アブラハムはエホバとの強い絆があつたので、「神が約束を必ず果たされるということを確信していました」。[\(ロマ 4:21\)](#) 神が約束を必ず果たされるということを確信していました) エホバは信仰を持っていたアブラハムのことを正しい人と認めました。[\(ヤコ 2:23\)](#) 「アブラハムはエホバ(*)に信仰を持ち、そのことは正しいと見なされた」という聖句の通りになり、アブラハムはエホバ(*)の友と呼ばれるようになったのです) [\(ローマ 4 章 18 節\)](#) かないそうにない希望でしたが、それでもアブラハムは希望に基づいて信仰を持ちました。

た。「あなたの子孫(d*種)も星のように多くなる」と言われた通り、多くの国の人々の父祖となることを信じたのですによると、アブラハムの信仰は希望に基づいていました。では、ローマ5章で使徒パウロが希望について何と書いているか考えてみましょう。

3. パウロは希望についてどんなことを説明していますか。

3 パウロは、私たちの「希望が失望に至ることは[ない]」と確信できる理由について説明しています。(ロマ5:5) その希望が失望に至ることはありません。私たちに与えられた聖なる力によって、神の愛が心の中に注がれているからです) また、希望に対する確信をどのように強められるかについても書きました。これからローマ5章1-5節を考えます。自分の経験と照らし合わせて考えるなら、希望が時間と共により確かなものになっていることが分かるでしょう。そして、どうすれば希望に対する確信を強められるかについても考えます。ではまず、決して失望に至ることはないパウロが語った素晴らしい希望について考えましょう。

素晴らしい希望

4. ローマ5章1, 2節から何が分かりますか。

4 ローマ5:1, 2 従って、私たちは信仰のゆえに正しいと認められたのですから、主イエス・キリストを通して神との平和を楽しみましょう(if*平和な関係にあります)。2 私たちはさらに、キリストを通して、信仰により、惜しみない親切を受けられるようになりました。その親切を今味わっています。神によって栄光に輝くという希望があるので喜びましょう(if*喜びます)を読む。パウロはこの言葉をローマにいるクリスチャンに書き送っています。ローマの兄弟姉妹はエホバとイエスについて学び、信仰を行動に表してクリスチャンになりました。エホバは、それの人たちを「信仰のゆえに正しいと認め」、聖なる力によって選びました。そのようにして選ばれたクリスチャンは、必ず実現する素晴らしい希望を持つようになりました。

5. 聖なる力によって選ばれたクリスチャンにはどんな希望がありますか。

5 後にパウロは、エフェソスのクリスチャンに宛てた手紙の中で、聖なる力によって選ばれたクリスチャンにどんな希望が与えられているかについて書きました。それら「聖なる人たち」には「素晴らしい財産」が与えられることになっていました。(エフェ1:18) 神は皆さん的心の目を啓発し、次のことを理解できるようにしました。神が皆さんを招いてどんな希望を差し伸べたか、聖なる人たちにどんな素晴らしい財産を与えようとしているか、) また、コロサイのクリスチャンに宛てた手紙の中で、この希望は「天で実現する」と言っています。(コロ1:4, 5) 皆さんにキリスト・イエスに信仰を持っており、聖なる人たち全てを愛しているということを聞いたからです。5 皆さんにそうしているのは、天で実現する希望があるからです。その希望について知ったのは、良い知らせの真理を聞いた時です) それで、選ばれたクリスチャンには、復活後に天での永遠の命を与えられ、そこでキリストと一緒に統治するという希望があることが分かります。(テサロニキ4:13-17) 兄弟たち、死んで眠っている人たちについて知らないでいてほしくありません。希望を持っていない人のように悲しんだりしないためです。14 私たちは、イエスが死んで生き返ったということに信仰を持っています。ですから、イエスと結ばれて死んで眠っている人たちを神が生き返らせ、イエスと共に

にならせてくださる、 ということも信じています。 15 エホバ(*)の言葉に基づいて、 皆さんに次のことを伝えます。 私たちのうち、 主の臨在(*)の時に生きている者は、 死んで眠っている人たちより先に天に行くことは決してありません。 16 主が天から下り、 天使長の声で号令を掛け、 神のラッパが鳴り響くと、 キリストと結ばれて死んだ人たちがまず生き返るからです。 17 その後、 私たちのうち生きている者が雲に包まれて引き上げられ、 彼らと一緒にになって空中で主に会い、 こうして常に主と共にいることになります。[啓 20:6](#) 第一の復活で生き返る者は、 幸福な者、 聖なる者である。 その者たちに対して、 第二の死は何の力(*権威)もない。 彼らは神とキリストの祭司となり、 **1000年**の間キリストと共に王として治める)



F.W.フランズ兄弟は、 天に行くクリスチャンが持っていた希望に対する確信を言い表した。 (6節を参照。)

6. 天に行くよう選ばれたある兄弟は、 自分が持っている希望について何と言いましたか。

6 天に行くよう選ばれたクリスチャンは、 この希望を大切にしています。 その1人である **フレデリック・フランズ兄弟**は 1991年にこう言いました。 「私たちの希望は確かなものであり、 私たちが想像さえしなかったほどに、 小さな群れの 14万 4,000人の成員の最後の一人に至るまで完全に成就するでしょう」。 この時、 兄弟はすでに何十年もエホバに仕えていましたが、 さらにこう言っています。 「[私たちは] その希望の価値観を失ってしまったのではありません。 ……それを待たねばならない期間が長ければ長いほど、 その希望の価値を深く認識します。 その希望は、 たとえ 100万年かかるとも待つだけの価値があるのです。 私は自分の希望をかつてなかったほど高く評価しています」。

7-8. エホバに仕える多くの人はどんな希望を持っていますか。 ([ローマ 8:20, 21](#))

7 現代、 エホバに仕えるほとんどの人は別の希望を持っています。 それは **アブラハム**が持っていたのと同じ希望で、 神の王国が統治する地球で永遠に生きるというものです。 ([ヘブ 11:8-10](#) 信仰) によってアブラハムは、 神に招かれた時に従い、 神から与えられることになる場所へ向かいました。 行き先も知らなまま出掛けたのです。 9 そして信仰によって、 約束の地で外国人として暮らし、 自分と同じ約束を与えられたイサクやヤコブと共に天幕に住みました。 10 アブラハムは真の土台を持つ都市を待ち望んでいたのです。 その都市の設計者および建設者は神です、 [13](#) これら的人は皆、 信仰を抱いて死にました。 生きている間には約束されたものを受けませんでしたが、 それをいわば遠くから見て喜び、 自分たちがよそ者で一時的居住者であることを人々に伝えました) パウロはこの希望を持つ人たちがどんな素晴らしい経験をするかについて書きました。 ([ローマ 8:20, 21](#) 創造物はむなしい状態に置かれましたが、 自分の意志でそうなったのではなく、 神によってそのようにされ、 同時に希望を与えられたからです。 21 創造物も腐敗への奴隸状態から自由にされ、 神の子供の輝かしい

自由を得るという希望ですを読む。) 聖書に書かれている将来の約束について初めて知った時、一番心を引かれたのはどんなことでしたか。完全になり、罪の影響がなくなるということでしょうか。亡くなった愛する人とパラダイスになった地球でまた会えることでしょうか。こうした素晴らしい希望をエホバが与えてくださっているので、私たちは将来を楽しみにすることができます。

8 天と地上のどちらで生きる希望を持っているとしても、私たちはその希望によって喜ぶことができます。この希望への確信は強めていくことができます。パウロは、どうしてそう言えるのかについて続く節で説明しています。パウロの言葉を考えるなら、私たちの希望が必ず実現するという確信をさらに深めていくことができます。

希望に対する確信をどのように強められるか



クリスチャンは誰もが苦難を経験する。 (9-10 節を参照。)

9-10. パウロの例から分かる通り、クリスチャンはどんな経験をしますか。 ([ローマ 5:3](#)) (写真も参照。)

9 [ローマ 5:3](#) それだけでなく、苦難に遭っても喜びましょう(if*喜びます)。私たちが知っている通り、苦難によって忍耐力が身に付くからですを読む。ここでパウロは苦難を経験することと希望への確信が強まるこを関連付けています。これを不思議に思う人もいるかもしれません。実際、キリストに従う人たちはみんな苦難を経験します。パウロはテサロニケのクリスチャンにこう言いました。「皆さんと一緒にいた時、私たちはいずれ苦難に遭う、と話していましたが、……その通りになりました」。 ([テサ一 3:4](#) 皆さんと一緒にいた時、私たちはいずれ苦難に遭う、と話していましたが、ご存じのようにその通りになりました) コリントの兄弟たちにはこう書きました。「私たちが経験した苦難について知ってほしいと思います。私たちは、……命さえ危うい状況でした」。 ([コリ二 1:8](#) 兄弟たち、アジア州で私たちが経験した苦難について知ってほしいと思います。私たちは、どうすることもできないほどのひどい圧迫を受け、命さえ危うい状況でした; [11:23-27](#) 彼らはキリストの奉仕者ですか。私は狂人のように言いますが、私の方がはるかに優れた奉仕者です。私の方がたくさん働き、多く拘禁されました。数え切れないほど殴打され、何度も死にかけました。 24 ユダヤ人たちからむちで 39 回打たれたことが 5 度、 25 棒で打ちたたかれたことが 3 度、石を投げ付けられたことが 1 度、難船したことが 3 度あり、一昼夜海上を漂ったこともあります。 26 何度も旅をし、川での危険、強盗の危険、同胞からの危険、異国の人々からの危険、町での危険、荒野での危険、海での危険、偽兄弟からの危険に遭い、 27 苦労して働き、眠れない夜を何度も過ごし、飢えと渴きを覚え、食べ物が何もないことがよくあり、寒さに震え、着る物がないこともあります)

10 現代のクリスチヤンも何らかの苦難を経験します。 (テモニ3:12 神への専心を貫き、キリスト・イエスに従って生きようとする人は皆、同じように迫害を受けます) あなたは、イエスに信仰を持ち、イエスに従っているために迫害されていますか。友達や親族からばかにされたり、厳しい接し方をされたりすることもあるかもしれません。正直に行動しているために、職場で嫌がらせを受けていますか。 (ヘブル13:18 私たちのために祈り続けてください。私たちは、鋭敏な(*曇りのない/正直な)良心を持っていると信じており、何事においても正直に行動したいと願っています) 政府から伝道活動をやめるようにと圧力をかけられているかもしれません。でもパウロは、どんな苦難に遭ったとしても喜ぶようにと言っています。どうしてでしょうか。

11. 苦難を忍耐することを心に決めておく必要があるのはどうしてですか。

11 苦難に遭うとしても、どんな良い結果になるかを考えると喜ぶことができます。ローマ5章3節 それだけでなく、苦難に遭っても喜びましょう(if*喜びます)。私たちが知っている通り、苦難によって忍耐力が身に付くからには、「苦難によって忍耐力が身に付く」とあります。全てのクリスチヤンは苦難を経験することになっているので、忍耐することを心に決めておく必要があります。忍耐して初めて、将来の希望が現実のものとなるのを自分の目で見ることができます。イエスが例え話の中で話した、岩地にまかれた種のことを思い出しましょう。イエスはそこで、良い知らせを聞くと喜んですぐに受け入れるもの、 「苦難や迫害が生じると」 信仰を捨ててしまう人のことを言っていました。そうした人たちのようにはなりたくありません。 (マタ13:5, 6) 幾らかは土が少ない岩地に落ち、土が深くないのすぐに芽を出しました。6 しかし、太陽が昇ると日に焼けて、根がないので枯れてしまいました、20, 21 岩地にまかれたもの、これは王国に関する言葉を聞き、喜んですぐに受け入れる人です。21 けれども自分の内に根がなく、一時は続きますが、その言葉のために苦難や迫害が生じると、すぐに信仰を捨ててしまいます) もちろん、苦難や試練を忍耐することは簡単ではありませんが、そうするなら必ず良い結果につながります。どのようにでしょうか。

12. 苦難を忍耐するならどんな良い結果になりますか。

12 ヤコブは苦難を忍耐するとどんな良いことがあるかについてこう書きました。「忍耐するのをやめないでください。忍耐がその役割を果たす時、皆さんは完全になり、全ての点で健全な、欠けたところがない人になります」。 (ヤコ1:2-4 私の兄弟たち、さまざまな試練に遭う時、それを喜ばしいことと考えましょう。3 ご存じの通り、そのようにして信仰の質が試されると、忍耐力が身に付くからです。4 忍耐するのをやめないでください。忍耐がその役割を果たす時、皆さんは完全になり、全ての点で健全な、欠けたところがない人になります) ヤコブはここで、忍耐には役割があると言っています。どんな役割でしょうか。忍耐は、辛抱や信仰やエホバへの信頼をもっと示す助けになります。でも、忍耐することによって、さらに素晴らしい結果を経験できます。

13-14. 忍耐はどんな良い結果につながりますか。それは希望とどんな関係がありますか。 (ローマ5:4)

13 ローマ5:4 そして、忍耐すると神から良いと認められ、神から良いと認められると希望を持てますを読む。パウロは、忍耐すると「神から良いと認められる」と言っています。でも、これは私たちが試練を経験するのをエホバが喜ぶという意味ではありません。私たちが忍耐し、忠実に仕え続ける姿を

見て、エホバは喜んでくださるのです。これはとてもうれしいことではないでしょうか。 (詩5:12 エホバ、あなたは正しい人を祝福してください。大盾で囲むように、恵みで覆ってください)

14 この記事の初めて考えた通り、アブラハムは試練を経験してもエホバに忠実に仕え続けたので、エホバに喜ばれました。エホバはアブラハムを正しい人と見なし、ご自分の友と呼びました。
(創 15:6 そこでアブラムはエホバに信仰を持った。神はそのことを正しいと見なした。ロマ 4:13 アブラハムとその子孫が、世界を授けられることになると約束されたのは、律法に従ったからではなく、信仰によって正しいと見なされたからでした、22 それで、「そのことは正しいと見なされた」のです) 私たちについても同じことがいえます。エホバは、私たちがどんな奉仕をどれぐらい行うかに注目しているではありません。私たちが信仰を持って忍耐するなら喜んでくれます。私たちは年齢、状況、能力に関わりなく、忍耐してエホバに喜んでもらうことができます。あなたは今まさに忍耐しながらエホバに仕えていますか。もしそうなら、エホバがあなたのことを喜んでいるということを忘れないでください。エホバから良いと認められているという自覚があるなら、エホバが将来の約束を自分のために必ず果たしてくれるという確信を深めていくことができるでしょう。

希望への確信をこれからも強めていく

15. パウロはさらにどんなことを言っていますか。そのことについてどんなふうに思う人もいるかもしれませんか。

15 パウロが言っている通り、私たちは苦難を忍耐するなら、エホバから良いと認めてもらうことができます。さらにパウロはこう言っています。「神から良いと認められると希望を持てます。その希望が失望に至ることはありません」。(ロマ 5:4, 5 そして、忍耐すると神から良いと認められ、神から良いと認められると希望を持てます。5 その希望が失望に至ることはありません。私たちに与えられた聖なる力によって、神の愛が心の中に注がれているからです) パウロは、ローマ 5 章 2 節 私たちはさらに、キリストを通して、信仰により、惜しみない親切を受けられるようになりました。その親切を今味わっています。神によって栄光に輝くという希望があるのですから、喜びましょう(if*喜びます) ローマのクリスチャンがすでに希望を持っていると言っていました。「神によって栄光に輝くという希望」です。それで、「希望を持っているクリスチャンにパウロが改めて希望を持てると言ったのはどうしてだろう」と思う人もいるかもしれません。



希望に対する確信や感謝はさらに強めていくことができる。(16-17 節を参照。)

16. 希望に対する確信はどのように強くなっていますか。 (写真も参照。)

16 **希望に対する確信は強くすることができる**、という点を考えるなら、パウロの言葉の意味をよく理解できます。聖書の素晴らしい希望について初めて学んだ時のことを思い出してみてください。地球がパラダイスになり、そこでいつまでも生きられるというのは夢みたいだ、と思ったかもしれません。でも、エホバや聖書の約束についてよく知るにつれて、その希望が実現するという確信は強くなっています。

17. 献身してバプテスマを受けてからも、希望に対する確信はどのように強まっていますか。

17 献身してバプテスマを受けてからも、エホバについてさらに学び、エホバをもっと愛するようになります。希望に対する確信は強くなってきたはずです。 (ヘブ 5:13-6:1 いまだに乳を飲んでいる人は皆、幼い子供であり、神の正しい言葉をよく理解していません。 14一方、固い食物(*よくかんで食べる物)は、十分に成長した人(*大人)のためのものです。そのような人は、使うことによって識別力(*知覚力)を訓練したので、正しいことも悪いことも見分けることができます。 6それで、私たちはキリストに関する初歩の教理より先に進んだのですから、十分に成長するように努力しましょう。基礎的な教えに逆戻りしては(d*再び土台を据えては)なりません。すなわち、むなしい(d*死んでいる)行いを悔い改めること、神への信仰、) ローマ 5 章 2-4 節 私たちはさらに、キリストを通して、信仰により、惜しみない親切を受けられるようになりました。その親切を今味わっています。神によって栄光に輝くという希望があるのですから、喜びましょう(if*喜びます)。 3それだけでなく、苦難に遭っても喜びましょう(if*喜びます)。私たちが知っている通り、苦難によって忍耐力が身に付くからです。 4そして、忍耐すると神から良いと認められ、神から良いと認められると希望を持てますに書いてある通りだと実感してきたことでしょう。大変な状況を経験しても、それを忍耐し、神に喜んでいただいているということを実感してきました。エホバが自分を愛してくれているので、将来自分のためにも約束を実現してくださる、ともと確信できるようになったでしょう。初めの頃よりも、希望はますます現実的なものになりました。家族にどのように接するか、どんな決定をするか、どのように時間を使うかなど、生活のいろいろな場面に影響があったはずです。

18. エホバはどんなことを保証していますか。

18 パウロは、神から良いと認められた後に持つことができる希望について、大切なことを教えてくれます。その希望が必ず実現するということです。その点についてパウロは、聖なる力に導かれて次の保証の言葉を語りました。「その希望が失望に至ることはありません。私たちに与えられた聖なる力によって、神の愛が心の中に注がれているからです」。 (ロマ 5:5 その希望が失望に至ることはありません。私たちに与えられた聖なる力によって、神の愛が心の中に注がれているからです) ですから、私たちはエホバが与えてくださった希望が必ず実現すると確信できます。

19. どんなことを確信できますか。

19 エホバがアブラハムにした約束や、エホバがアブラハムのことを正しい人と認め、友と呼んだことについてじっくり考えましょう。アブラハムの希望が失望に終わることはありませんでした。アブラハムの辛抱は報われたのです。聖書には、「アブラハムは辛抱した後、そのように約束

されました」とあります。（[ヘブ 6:15](#) アブラハムは辛抱した後、そのように約束されました。[11:9](#) そして信仰によって、約束の地で外国人として暮らし、自分と同じ約束を与えられたイサクやヤコブと共に天幕に住みました、[18](#) 「あなたの子孫(d*種)と呼ばれる者はイサクから出る」と言っていたにもかかわらずです。[ロマ 4:20-22](#) 神の約束があったので、信仰が欠けてふらつくということではなく、かえって信仰によって強くなりました。そして、神をたたえ、[21](#) 神が約束を必ず果たされるということを確信していました。[22](#) それで、「そのことは正しいと見なされた」のです）私たちもエホバに忠実に仕え続けるなら、希望が実現するのを見るることができます。ですから、希望によって喜ぶことができます。（[ロマ 12:12](#) 希望によって喜びましょう。苦難に遭っても忍耐しましょう。粘り強く祈りましょう）パウロはこう書きました。「希望を与える神が、信仰を持つ皆さんをあらゆる喜びと平和で満たしてください、皆さんが聖なる力によって希望に満ちあふれますように」。[（ロマ 15:13](#) 希望を与える神が、信仰を持つ皆さんをあらゆる喜びと平和で満たしてください、皆さんが聖なる力によって希望に満ちあふれますように）

どのように答えますか

1. ローマ5章2節でパウロはどんな希望について語っていましたか。

・S04 ローマにいるクリスチヤンは、エホバとイエスについて学び、信仰を行動に表してクリスチヤンになった。エホバは、それの人たちを「信仰のゆえに正しいと認め」、聖なる力によって選んだ。

・S05 選ばれたクリスチヤンには、復活後に天での永遠の命を与えられ、そこでキリストと一緒に統治するという希望がある。

2. ローマ5章3、4節によると、苦難を忍耐するとどんな良いことがありますか。

・S09 パウロは苦難を経験することと希望への確信が強まるなどを関連付けている。

・S11 苦難に遭うとしても、どんな良い結果になるかを考えると喜べる。（ローマ5:3）苦難によって忍耐力が身に付く。苦難や試練を忍耐することは簡単ではないが、そうするなら必ず良い結果につながる。

・S12 忍耐するのをやめないなら、忍耐がその役割を果たす時、完全になり、全ての点で健全な、欠けたところがない人になれる。忍耐は、辛抱や信仰やエホバへの信頼をもっと示す助けに

・S13 （ローマ5:4）忍耐すると「神から良いと認められ」、つまり私たちが忍耐し、忠実に仕え続ける姿を見て、エホバは喜んでくださる。

・S14 エホバは、私たちがどんな奉仕をどれぐらい行うかに注目されないが、私たちが信仰を持って忍耐するなら喜んでくれる。エホバから良いと認められているという自覚があるなら、エホバが将来の約束を自分のために必ず果たしてくれるという確信を深めていける。

3. 真理を学び始めた時と比べて、希望に対するあなたの確信はどのように強まっていますか。

・S16 聖書の素晴らしい希望について初めて学んだ時に、地球がパラダイスになり、そこでいつまでも生きられるというのは夢みたいだ、と思ったかも。でも、エホバや聖書の約束についてよく知るにつれて、その希望が実現するという確信は強くなっていることでしょう。

・S17 献身してバプテスマを受けてからも、エホバについてさらに学び、エホバをもっと愛するようになり、希望に対する確信は強くなってきたはず。大変な状況を経験しても、それを忍耐し、神に喜んでいたいているということを実感してきた。エホバが自分を愛してくれているので、将来自分のためにも約束を実現してくださる、ともっと確信できるようになった。初めの頃よりも、希望はますます現実的なものになり、家族にどのように接するか、どんな決定をするか、どのように時間を使うかなど、生活のいろいろな場面に影響があったはず。

・S18 神から良いと認められた後に持つことができる希望について、「その希望が失望に至ることはない。聖なる力によって、神の愛が心の中に注がれているから」と保証の言葉を語った。

エホバが与えてくださった希望が必ず実現すると確信できる。

139 番の歌 新しい世界を見つめて